未来へつなぐ vol.16 | 渡辺 伸治 |

さいたま商工会議所　総務委員長
（株）渡辺製作所　代表取締役

ものづくり ＝ 人 ＝ 品質
インフラを支える縁の下の力持ちとして

今や生活に欠かせないインターネット等の情報通信。（株）渡辺製作所は、創業以来110年にわたって通信機器関連製品の製造を担い、日本の通信インフラを支えてきました。「つなげる・つたえる・みつけだす」をモットーに、優れたものづくりと人材育成で同社を成長させてきた、渡辺社長にお話を伺いました。

渡辺 伸治（わたなべ　しんじ）
1972年、芝浦工業大学卒業後、家業である（株）渡辺製作所に入社。代表取締役専務として浦和工業団地の誘致および建設計画を推進し、1991年に社長就任。さいたま商工会議所の工業部会長を長年務め、2017年から埼玉県雇用対策協議会会長、2022年に埼玉労働基準協会連合会代表理事に就任し、業界の働き方改革や人材育成をけん引している。

電話からインターネットへ
常に時代が求める通信機器製造を支えて

（株）渡辺製作所は、私の祖父が1912年（大正元年）に東京・赤坂で創業した会社です。お取引のきっかけなど詳細は分かりませんが、近所には東京逓信局（後の日本電信電話公社・現NTT）があり、そこの指定業者として各種通信機器の部品を製造・納入していたそうです。

その後、戦争によって東京は灰燼（かいじん）と化し、当社も焼け出されて1948年に浦和に工場を新設することになります。しかし戦後はインフラ復旧が急務となったことから仕事は多く、大変な活況だったと聞いています。

初代の祖父と2代目となった父は電話関連機器を。そして私が事業を承継した1990年代以降はインターネットの通信コネクタなどを中心に、常に時代が求める通信インフラに必要不可欠な部品製造を担って、2012年には創業100周年を迎えました。

ワンストップ型の開発・生産力を活かし、IT通信に欠かせないコネクタを製造。SDGsに貢献する、新たな自社製品開発にも取り組んでいる。

発展著しいさいたま市を本拠地として
高まる需要に応えられる生産体制を整備

私は後継者となるべく芝浦工業大学に学び、卒業後すぐに当社に入りました。そのとき父から託されたのが、製造拡充のための新たな工場の立ち上げです。まだ浦和商工会議所だった時代、工業部会のメンバーと協力して土地選定や誘致などを推進した浦和工業団地に第二工場を開設したのは1988年のことでした。

県の産学連携のリーダーである埼玉大学がすぐ隣にあり、取引先の多い東京へも近い。さいたま市の発展に伴って人口は増え、周辺道路もどんどん整備されていくという絶好のロケーションを得たことは、当社にとってとても幸運なことだったと思います。

父もそんな様子を見て安心したのでしょう。1991年には本社機能を第二工場に統一し、年々高まる需要に応えられる体制が完成したところで、41歳の私に事業を託してくれました。

積極的な雇用と人材育成に注力
優秀な社員こそ企業の財産

技術の進化は日進月歩。その中で、常に社会に必要とされるものづくりをする企業であり続けるためには、優れた人材の確保が欠かせません。おかげさまで当社は、毎年よい社員が採用できていますが、そのルーツはバブル崩壊後の就職氷河期に遡ります。不況によって多くの優秀な学生が職に就けなかったこの時期に、思いきって多くの新卒を採用した現在50代～40代の人材が、今の当社の中枢となってくれているのです。

当社の強みは、オーダーに応じて設計開発を行い、量産のための金型や製造機械をオリジナルで作って、製造納品できるワンストップ型企業であることです。開発者、製造技術者など、さまざまな職能の人材が必要なビジネスですから、雇用と人材育成にはとても力を入れてきました。

社員との絆を育む「社員パスポート」の発行は、25年目を迎えた。

今年で25年目となる「社員パスポート」の配布も、その取り組みのひとつ。胸ポケットに入る小さな手帳ですが、経営理念や待遇規定、近年では社内活動のルールや各種ハラスメントの定義なども明記されています。

社員が目を通し、会社のスタンスを理解してもらえるように。そして自分のワークライフバランスを良くするために活用してもらえるように、巻末には有給申請カードを添付する欄なども設けるなど、年々ブラッシュアップしています。

あわせて、週に1度の週報提出と、私自身による返信も20年以上続けています。今どきアナログな手法かもしれませんが、社員が働きやすい職場環境を整えるためにも、意思疎通と状況把握の労は惜しまない。それが経営者の務めなのではないでしょうか。

現在は、二人の息子が入社して経営に携わっていますが、私自身は商工会議所の総務委員会や、県の雇用対策協議会などの公職も積極的に務めています。自社はもちろん、埼玉の中小企業がよい人材を獲得し、育て、さらに発展していけるよう、精一杯努めたいと思っています。